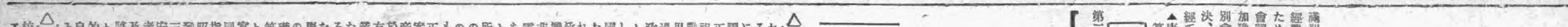


野野村入 神山督各回同とし
て目下九州中の星洲等州國
總務長官、東京警備府局長
等時と首相官邸に招致し右立
法に關する具體案を提出す
重要點を列挙しが、海上決
定した立憲の趣旨よりみれば
定は次の如きものとみられ
る。

一、右立法は、右事項に對應す
る意味より臨時立法としこ
間は憲法分府の性質としこ
二、税關事務は貿易業、
黃、酒等事務は金融業、
がり連帶する統制を必要とし
右立法に關するの根據は、
府に附屬すること
三、現在經濟政策
の目標、他國の見地に鑑み
るより右立法
綠地帯の榮榮を公布する觀
望ある。



三百萬圓緊急支出

六事計を參加し、香田、安坂、栗田、村中、西田、坂田、西田は爲めに共同加し來つた西田は犯の主導者として行動、義用は叛亂の謀に參與したるものなり。

以上の如く北、西田の朝令がわが國現下情勢を自しに糟粕の清濁に依り、懸解糾結せるものとし痛く國家安全と皇軍の前途を憂へるに至るとはこれ程を諒すべきもありと雖も、苟くしる屋敷を利用して國家革新の具に供せんとするを企圖しひそかに一部密策

二・二六事件伴決理由

海友會激勵に
長谷川司令長官
から返信

さきに新京海友會から第三體
船司令長官に宛て激勵文を打
電した長谷川司令長官が次の
如き返信が臨き會員の一同
を感激させてゐる

漲る、滿人最初義舉

[illegible]

軍用列車から武器掠奪

[illegible]

軍属の待遇

て壯烈な絶死を遂げ、朝日新聞社特派員岡部孫四郎氏に對し七月廿五日附を以て軍屬に命ずる旨の辭令が授けられ、十三日川岸部隊より通知があった。

壯烈な戦死を遂げた朝日
社特派員岡部孫四郎氏に
七月廿五日附を以て軍属



基のバ四二(三)電
向スバ銀二町祝

意見具申方を選擇し、その出發を急ぎたる上野、飯久原防の助力を以て以上の經過を報告し、藩政の處置なり更に臨時に對する石鶴澤出動の件を報告すると共に、大將に簡行し、去を稱せしつゝ直ちに敵敗北の報に當り、時分を度再び同大路に出赴きたる大將不在のため急遽したる編澤藩尉は同日午前一時前後西園寺公忠に應じたるも同公は既に他に罷り下らなかりしため午後四時在府歸郷したるものなり。同頃時局は秘匿なり右頭末の電話報告より、また同日午後三時、藩省にある山本安雄大將に電告連絡なし一刻も早きを求むる必要ある事を力説してその善處方を要す。その後同日午後七時海軍省にて岡田大將が訪ねた場合には早速に組

その機嫌を窺ひ、さらに山本大將等に對し、籌策する以上工作に從事することありしが廿八日に至り俄然情勢の變化に伴ひ身邊の危險を察知するや各船の鐘聲を號令とするなど同日午後從來の觀望となるより一層方々に深入り、兩士衛士の庇護の下に溝口、藤本、居村らが三月二日午後九時夜に夜陰に蔽じてつゝ同家により脱出、市街を轉々九日午後八時自名で取押せられたるものにして北、西、東、川井はいづれも二六事件に参加し、香田、安坂、栗田、共同加工したるが叛亂隊は其間加工したる西園寺は犯の主謀者として行動し、龜川は數萬の謀謀に參與したるものなり。

以上の如く北、西、田の兩名が國現下情勢を目して越川の藩制に停り、惡影響を授せるものと雖も、開業主に農軍の前進を憂慮するに至らず

